

次期掘削候補地について

目次

1. 昨年度の掘削地と次期掘削予定地および今後の掘削候補地..... 1
2. 次期掘削候補地の現況..... 3
3. 次期掘削候補地の掘削計画..... 4

1. 昨年度の掘削地、次期掘削予定地、及び掘削候補地

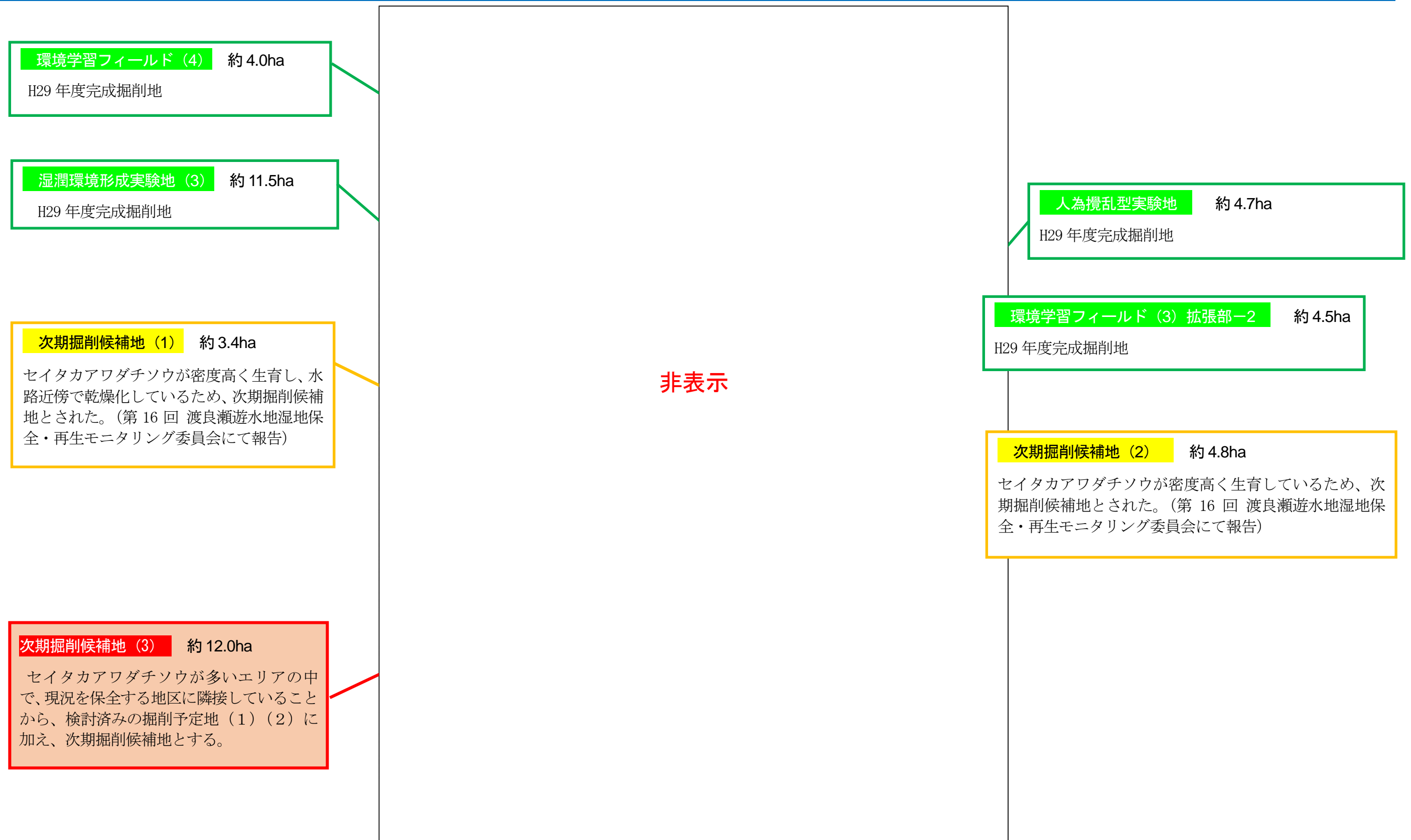


図 1-1 次期掘削候補地位置図

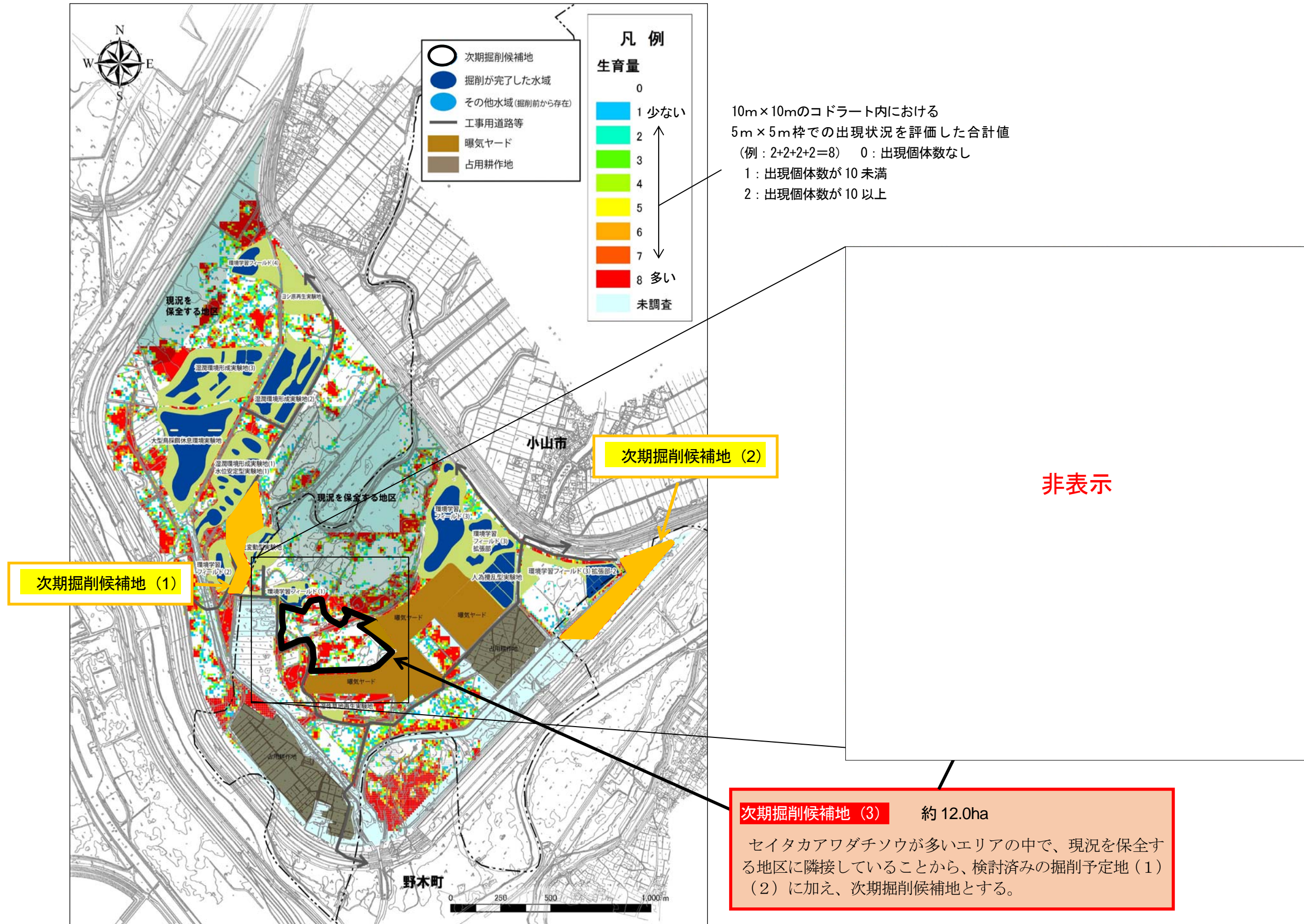


図 1-2 セイトカアワダチソウの分布と次期掘削候補地

2. 次期掘削候補地の現況

- 土質断面図によれば、表層に厚さ 10m に及ぶ粘土層がある。この粘土層が湿地の水の受け皿になっている。
- 地下水位断面図および平面図に示した各地点水位は西側に向かって低くなる。したがって全体としては東から西に向かって地下水は流動している。
- 掘削予定地の観測地点（2-2-5）の水位変動幅は、平成 18 年 5 月の出水時や夏期の水位低下時（地下水揚水の影響と考えられる）を含めると 3m 以上である。大規模出水時や夏期の水位低下時期を除くと、水位変動幅は概ね 1m 程度である。

非表示

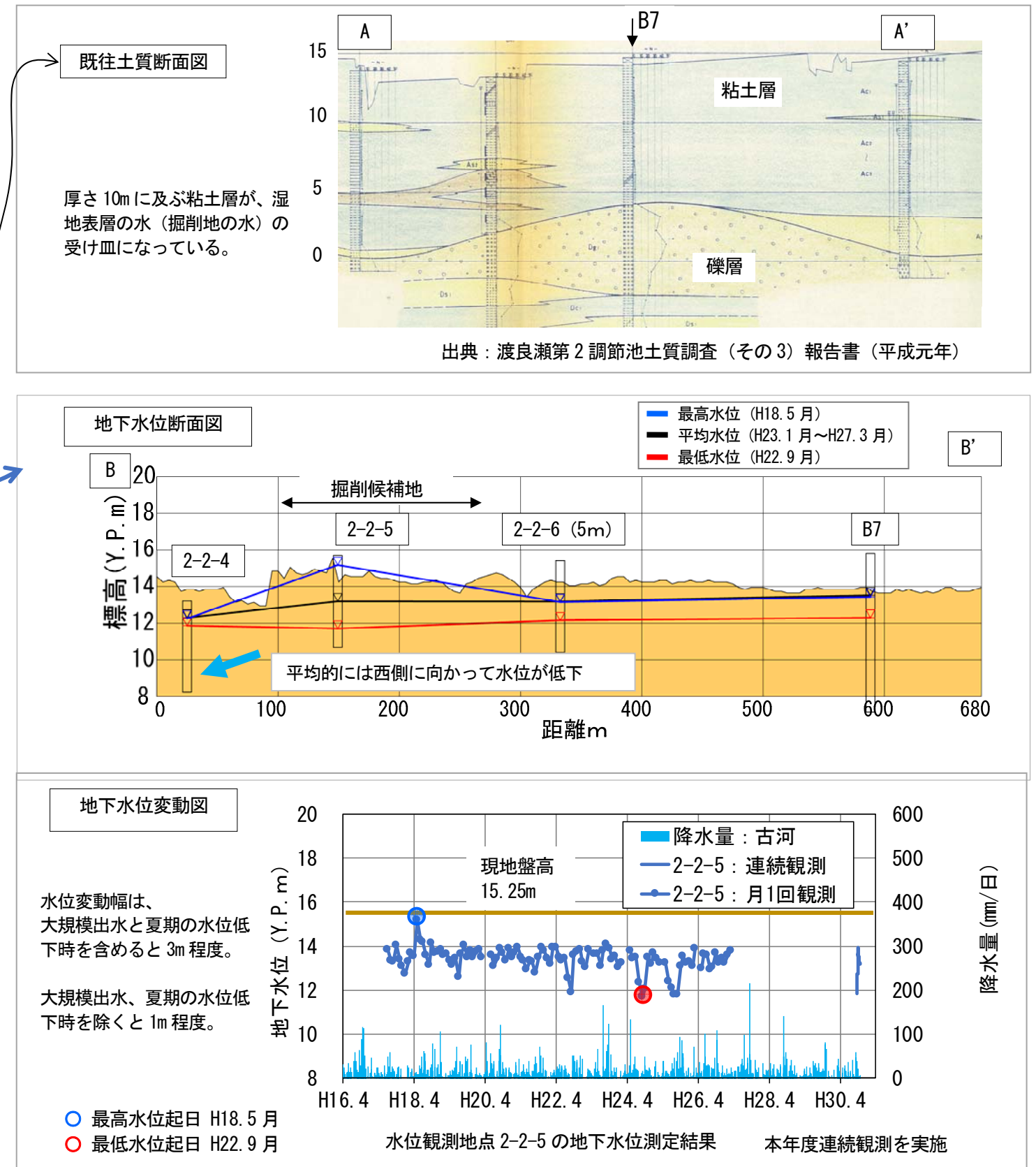


図 2-1 次期掘削地の土質および水位の状況

3. 次期掘削候補地（3）の掘削計画

- ・次期掘削候補地(3)の掘削後の目標像としては、地表面付近に水位があり、ヨシ・スゲ類が生育する状態となる場所を広く取るとともに、水位低下時にも水面を保つことができるよう深い部分も設ける。西側に位置する排水路とは連絡させずに、水位が安定した池沼を維持する。
- ・掘削後に、表土を深さ 1m 程度埋め戻し、造成後の地盤高とする。埋め戻した表土は水没期間が長いため、埋戻し土からのセイタカアワダチソウ等の発生を防止する一方、湿性植物の生育が期待される。また、深い層の粘性土に比べ、表土は有機物が多く保水性が高いことから、湿潤環境が維持されると考えられる。
- ・西側の排水路付近については、排水路の維持、排水路と池沼との隔離のために、大きく掘削しないこととし、セイタカアワダチソウの繁茂状況により表土の剥ぎ取りを行う程度とする。

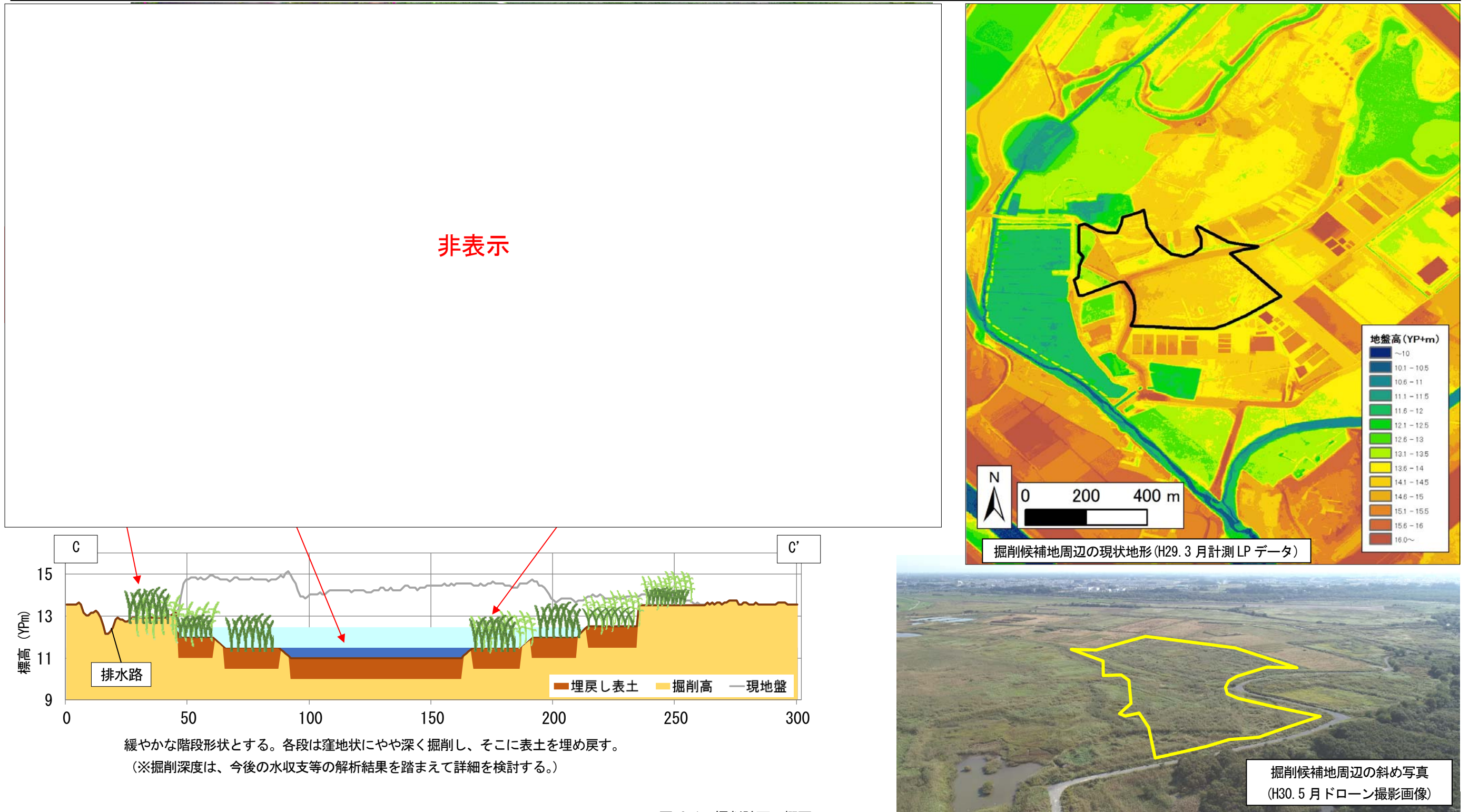


図 3-1 掘削計画の概要